

# 遊びと遊びと仕事

— その区別とまじり合いで考える —

このムスカニカがある。

遊び、という特集テーマはさまたものの、

考えてみるとこんなムズカニイニヒはいすまでの特集にはなかつた。

特集千成ホテルの大火、特集ひし、特集バニク、特集酒などは、みんな具体的だ。たかう、範囲がきちんとさき、こいだ。しかし、西びとなるとどうはいかない。

ムズカニサは遊びの種類がたくさん、めいめいにちぎり、ということでもあるけれど、それがムズカニサの根本とはなくて、一体、遊びで何だーと考へてしようところにほん

ひまつぶしてなんだー

それで特集のテーマをひまつぶしに変更したら、という案も立ててきた。そうするかと皆が思、たのも事実だ。だが、二年ならやべ、しかどなると、決してそうではない。

ひまつぶしという、そのひまとは何か。ひまというのはタイツな時間のことだとすれば、タイツでない時間がふらふらちにあるからどうか。しかも、ちゅうタイツしてくるのではなく、ひとつの頭が浮かんでくる。

## ある野丁場の思い出

以前、ある野丁場にはたわいこいた時のことを思い出す。

そこは大工事で、事務所には棟主任といつてエライヒトがいるほか、工事のそれそれの節面に個人ものの主任がいた。飯場モ土工ばかりでなく、大工の飯場、左官の飯場、電気屋の飯場、カジヤの飯場という具合にたくさんあった。風呂はちよつとした鐵湯ぐらゐの大きさのが、イルな人か貼つてないコンクリートむき出しだけの男湯とな湯が作、これクリ、ホイラーゲりかしこいた。

あれはそここの土工で、下が食堂、炊事場、おやじ夫婦による二人の住い、事務所、二階

が大部屋で四十人ぐらい寝ている飯場に入っていた。手師につれて行かれたのだ。

仕事はそんなにしんどくなかったし、X三毛いり方たつたけ川で、向こうに、やかな市街までは一里近くもあり、帰りのバスは早く

なくね、コレまうのさ、マチへ出かけたモヤチンコモウつくりやつていらぬなかつた。

それで、仕事から帰つて、メシ、フロがすんこしまうヒ、テレビを見るか、将棋ゑですか、花札をやるか、ただや干ヤヤ干ヤドレヤ、てるか、雑談でも話正しかひまつぶしの方云がなかつた。つまり、寝るまでの時間はタイツツだ、E。けれども、ならばタイツツカセイで、体を疲れさせて、帰つてきてメニ、ブロ、グワーで眠つてしまつた。残業はいつもモヤリたのだが、ゼータイの命命以外は、首やうなかつた。そして飯場でさうでろしこた。

雨が降れば仕事は休みで、マチへ出で行くには時間はたつぱりになるのだが、こつらの思うほどカネモ借りられないし、オーナーといひの者がカラなれて、バス停まで歩いたり、そこでバスを待つたりするのに困るから、や

つぱりこうごましていい、しょくには二階でスモウをくつたりして、下のみやじからが鳴らすのだ。た。そしてタイツやのう」と言い合うのだが、朝、早く目をさました者が「あ、雨や：：雨やでエーと一言りうとせず困きた。ふだんはなか々か起きない者まで早く起きて、雨降りをようこんだ。

## 氷害に出会つた時に――

そつりつ飯場が氷害にあつた。台風だ、とか集中豪雨だ、とか、原因は忘れたけれど、飲食部食堂はもちろん、おやじたちの部屋にも氷がつくようなりきり、もうろん大工や左官の飯場も、元請部屋所も氷がたしなめた。

工事現場の方はぐっと高いかく大丈夫なのだが、その現場と、飯場や事務所のある低い区域との間に川があり、その川はバス停近くの大川へ一級河川のように通じていて、大きな川が増水したからあふれだしたのだ。

## 仕事もひまつぶし？――

こういふ状態で、みんなちがえついたひまつぶしは何であ、たか。

「仕事はないか、仕事をささう、だ、だ。ところが、道路が氷で凍しがので、生コン車もトラックを入つてこられまい。給食やのまなのだ。それから道具がほしい。道具小屋は流されてしま、たのだ。どうにもならない。おれたちは現場の中の川と、バス停の近くの大川の方の川が一つになつて、一画が泥色の氷になつている光景を眺めるばかりだった。雨が小降りには、ても、山向斜に降った雨が流れてくるから、水が引くには日数がかかるだろうといふ、

「仕事してゐる方がある、ほゞマニヤ日アレ、一時人まにがれ、セニケンモノのタイフツはかなりく」

大工、内々だつた。工事現場へある大工場の新築へのヒナントリ出で、すでに屋根を張つてある一角に全員が集つた。家族折からの取人もすいぶんいから、女房もまじりだ。

めしは元請が給食やにての人で出しこく、ヒナンしていの間は全部に専用賃金を払つことになった。つまり、何もしないでいいことを

雨はやまず、氷はひかない。

夏だから寝るのに寒くはなかつたが、三日やぐらひひモラ皆のタイツが霜凍になつた。テレビ、折機、花札、雑誌――何もなしで、

ただめしを食つて雨を眺めただけだから、タイツモヒトリのた。あふれこよ川で魚をとつてアドリするけりひ長づきはしない。

や、ふみ外して川へ落ちたら死んでしまうみそ山もある、ひまつぶしの方法がないのだ。

おれたちは、同じことばを言ひ合つた。それは、大工、左官その他、あらゆる取人を同じだ。

## 似てること、ちがうこと――

この時、アリにちげ仕事をしたいなど思つたのは、工期のおく川をべ耐しにからではな。この大工場を早く作らなくては、日本経済にマイナスになること心配したのでない。ただただ、自分のタイツにあきあきして、ひまつぶしの方法がほしがつたのだ。そしてひまつぶしの方へ遊び道具へが何に由来から、仕事ヒマつぶしは、セニタリ同じことではないと思う。しかし似たよつはことどうも、ちつと別のことにすれば、仕事は收入へ賃金レとくつづりしたことなど対して、遊びひまつぶしは支出しく、ついでいるといふことだ。ヤシンコヤギ・アンブルはもうかるな人々、まさかえしてはいけない。おれは、

もうかうかも知れぬ、だけビソンするニヒ

ハ大が多いの、だレと知つてレズ、そのカモ

知れぬリレ筋持をたのしむ遊びの一つなり、

それから、仕事はすず大体しんどい、つう

レレレ、ニことのに対して、遊びには自分

からもんとする、面白い、といふ性質がある。

そして、ここで云すばしとは微妙にちがつ

てくるのだが、ひまつぶしには、さんでやる

のでもなく、面白ざるのでもなく、仕方なし

面白くな、仕方なしにはじめたのを忘川

こしよう場合もあるが、やうな、だら、ひま

フぶしは完全に遊びと同じになつてゐる。い

ヤ遊びそのものだ。

## 仕事が面白いともある――

日が、もうすぐ、と考えてみよう。

仕事はいつもしんどく面白くないか。

必ずぞうどとは歎言をきなし。らくらく

遊びそのものだ。

シにモロッたりして、サケ色かけ走りつ直

りまつ、カード押しに走りまへ、面白が、

た轟轟を、少し古い者なら誰が亡忘れてほり

ないだろう。

こんな時、仕事は仕事にちがいなしのだが、

遊びの要素もふくまつていだれけだ。少なく

も、いやな気分のない、たのしくや川る仕事

ヒロいえろ。

## タグの仕事をする人もいる

ぐらに、もうちよつと考えてみよう。

仕事はいつも收入（賃金）と結びついてい

るかどうか。

こうなると、考え方かラッピングクリエ

ア用はならぬ。

世の中にいくらでも見られる人々、自分ス

宗教や主導のために、一円にもならぬこと

をやつて、それこそ自分の仕事だと考えてい

る人々がいる。

## ホンマの仕事と仮りの仕事

手近なところでは、ナスニ町交又の東北

とやめて、面白いは事だ、である。工方に

してある。

たとえば握り方で、ツルハシとスコップを

やかに地盤に当つた時、砂の層ならすいすい

スコップではねあげらる。また粘土層に當

すレバ、まるで瓦工處理でもしていけるが、

スコップではも、まず向う側へ、スコップの向う

方面にしてぐいと踏んで、こんどはこ、右側

からぐいと踏むと、ヨーカン切りという場合

にエのかにまりが切れる。こんな時は、実際

仕事が面白くな、て、斤母にモヤトリガミさ

ニ、いろいろと工夫しながらより面白いよ

うにしゃ、たりする。

いまはコンクリート打ちは大珍いポンアド

けだ、以前、タワーを組みホーリーをあけて、

カードという二輪車にホッパーから出るコン

クリートを受けこぼんでも時には、足場が

あそらく一円でもならぬことなのだ。

五の人たちは、自分の食つための取扱は別

に扱つて、レズ、その取扱をすましたあとで、

タ方教会へ集まつて、街にて太鼓をたたき、

「神の福音」を広めようとしている。

五人は五の人たちの高、てることを信じる

い方だけと、彼らが熱心だとは認める。レフ

か、あの人民も「神」を信じてくるかも

知れないが、信じてる現状のあの熱心さは大

したじのだ。パカパカしいぐらいたしたその

だ。教祖や牧師はカネになるけれど、あまり

う信者はカネにならない。しかし熱心だとか

ア不らしことか思ひず、街にて声をからし

て。それを仕事、いや使命と信じて。

釜にすぐある劍だ。

事故を起こして免許停止になり、たまたま手や、ヤインアルのやりすゞで直見一切を貸し入れた大工がアニコに打つている。

要するにほんの一時しのぎの日。

こんな時、その運転手や大工がスコップを使いながら思つてゐることヨーオレのホンマの仕事はアンコではないでしょということだ。そんな状態の者と現場でいっしょには、こゝのセリフを聞くのが辛い。

まあ、それはそれでやかる。納得する。  
しかし今日は、毎にいくへ山谷でモチ  
町でモチの他のモチアニコしそう、アリ川  
の仕事はアニコだ!! とき、ぱりきえる者が  
とへくらいいるにどうか。

大体、生まれたガラのアニコはいなし。

そいつならどうしてアンコになつたかといつ  
つて、出稼くずれ、ヤーンアルの罪で、刑務所  
がえり、夫婦や家庭不和からの解雇、つとめ  
矢の倒産やクビ切り、好奇ひ、革命戦争の大

じや、その他あらごとくの理由がある。  
そして、ほとんど全部の者が、いまこそア  
ニコしてゐるけれど本当のあれは一と思つて  
る。つまり、釜ヶ崎でくらすようになつた時  
から脱笠ヶ崎を考へてゐる。

免許停止の運転手や、道具を籠に入れた大  
工が、アニコは自分の仮りの名と想つてゐる  
と同じことなのだ。ただ、現実には、直見手  
や大工の場合、「脱笠ヶ崎」と隣接し、家  
出人は探しあつたられば大てい帰るけれど、  
普通一般には、五ぐらしさ長くなければなるほど  
だ。だんだん抜け出しにくいつば釜ヶ崎だ。  
歌の文句にある通り、住み慣れてくると、  
「ここは天国釜ヶ崎」の気分になつてくましく、  
ほんとはどう思れない者じ、思つてゐるように  
居直るしか仕方せなく刀る。

だが、さうな、乙もまだ、釜は假りのネグ  
ラ、アニコは假りの名といふふうに思うのさ。  
腹の底の底のホンマなのだ。  
といふわけ、アニコといふ仕事は、食つ

うたの仕事ではない、乙自分の不平等の仕  
事だとは思はない。では、木ニコの仕事とは  
一体何なのか?

## おしまいのメモ――

ここまぶ里に生きて、實にモラシンド  
フカツた。

考へてることはずまだまあ、こゝそれ  
丘印山、ばし風に丘してみると、次の  
ようになる。

○

「たゞの生き方というやつは、鞍山全  
体が遊びひまつぶしのようなものだ  
からや。生きることはタイツな時間を使  
ふことだ。」  
しかし、生きてゐる全体が遊びひまつ  
ぶしになつてしまふために、食つ  
たりの仕事は残る。たゞ考え方次第で  
は、食つたのはあまるモ遊びひま  
つぶしの一種類と思うことはできるだ  
ろう。

いままで書いたことを石川人には  
通用しないに比て二郎が大分あははすだが、  
自分で中年と思つてろへから上の年命  
の人には通じると思う。まだ一語に考  
えてみることをしたい。

へ

・釜は坂リのネグラ、アニコは坂リの安  
ーと思つてゐるうち、釜ぐらしの年  
期が重なると、木ニコの方は幼のよう  
になり、坂リの方だけかど、しり悪ち  
づりてしまう。

・そうなるくると、直びひまつぶし  
ヒ仕事はなんだん正解がつけにくくな  
る。

・なぜかといえば、木ニタの方を竹には